

びわこアーベントロート合唱団
京都混声合唱団
合同演奏会

J.S. バッハ

マタイ受難曲

BWV 244

Matthäus-Passion

2018年10月21日（日）
14：30開演（13：30開場）

滋賀県立芸術劇場
びわ湖ホール 大ホール

主催：びわこアーベントロート・京都混声合同演奏会実行委員会

後援：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール／ 滋賀県／ 大津市／ しがぎん経済文化センター



ご挨拶

澄み渡る空気が心地よく感じられ、音楽を楽しむのに相応しい季節となりました。本日は
びわこアーベントロート合唱団・京都混声合唱団の第2回合同演奏会にお越しいただき、誠に
ありがとうございます。

縁あって5年前に両合唱団で最初の合同演奏会を開催し、メンデルスゾーンの大曲「エリ
ヤ」を演奏しましたところ、大変好評をいただきました。今回も、普段合唱団単独では採り
上げることが困難な大曲、J.S.バッハのマタイ受難曲を、世界屈指のエヴァンゲリスト、畑
儀文氏の指揮で演奏します。拙い合唱かもしれませんが、両合唱団一丸となって歌いますの
で、私たちの心の調べをどうぞお聴きください。

今後とも、両団に温かいご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げてご挨拶とさせてい
たきます。

2018年10月21日

びわこアーベントロート・京都混声合同演奏会実行委員会

プログラム

J.S.バッハ作曲

マタイ受難曲

Matthäus - Passion BWV244

第1部 (約 80 分)

休憩

第2部 (約 100 分)

指揮 福音史家 畑 儀文

イエス 小玉 晃

石橋 栄実 (ソプラノ) 谷地 敏 晶子 (アルト)

松原 友 (テノール) 青山 貴 (バス)

管弦楽 オーケストラ・シューベルティアーデ

合唱 びわこアーベントロート合唱団

京都混声合唱団

大津児童合唱団

■畑 儀文 (Yoshifumi Hata) / 指揮者 福音史家



兵庫県篠山市に生まれる。大阪音楽大学大学院修了。小林道夫氏の伴奏による初リサイタルを行う。以後、テノール・ソリストとして活躍し、中でも過去3回のドレスデン国立歌劇場管弦楽団ホルン奏者ペーター・ダム氏との共演、イェルク・デームス氏の伴奏による数多くのリサイタル等、いずれの場合にも大きな成果を収めている。1985年「日本テレマン協会・東ドイツ演奏旅行」にソリストとして参加し、現地で絶賛を博す。91年オランダ・アムステルダムにおいて、バロック歌手として高名なマックス・ファン・エグモント氏のもとで研鑽を積む。以後オランダ各地に於いて毎年受難週にはエヴァンゲリストとして招かれ、ドイツ、オーストリア等ヨーロッパ各地に於けるリサイタルでも大きな反響を呼んでいる。また93~99年にかけて、シューベルト歌曲全曲演奏を成し遂げ国内外で話題を集める。99年9月から新たなシリーズ「シューベルティアード」を、さらに2006年から「シューベルティアード mit フォルテピアノ」を展開。一方、日本コロムビアよりCDデビューを果たし、「日本のうた」、「シクラメンのかほり〜新しい日本の歌」、シューベルト歌曲集「美しき水車小屋の娘」、「昭和のうた」と次々とリリース。その天性の歌声はジャンルを問わず、心に響く感動を呼び注目を集めている。1979年「大阪文化祭奨励賞」、86年「咲くやこの花賞」、「神戸灘ライオンズクラブ音楽賞」、87年度、88年度、89年度「大阪文化祭本賞」、88年「大阪府民劇場奨励賞」、93年「坂井時忠音楽賞」、95年「ブルーメール音楽賞」、96年「兵庫県芸術奨励賞」「大阪文化祭奨励賞」、2007年「兵庫県文化賞」を受賞。田原祥一郎、マックス・ファン・エグモント、ヘルマン・クリスティアン・ポルスターの各氏に師事。2012年より関西フィルハーモニー管弦楽団に新しく設立された関西フィルハーモニー合唱団の指導を担当している。丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば音楽監督。

■小玉 晃 (Akira Kodama) / イエス



京都市立芸術大学大学院修了後、渡奥。ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。リートをW. モーア、オペラをR. ニックラー、発声を宮廷歌手M. ニコロヴァに師事。在欧中リサイタルの他、多数の演奏会に出演。バロック作品の歌唱法及び解釈をM. v. エグモントに、リート解釈をH. ホッター、E. アメリング、E. ヘフリガー、W. ベリー他に学ぶ。ベートーヴェン『第九』、バッハ『マタイ受難曲』、『ヨハネ受難曲』、ヘンデル『メサイア』、モーツァルト、ブラームス、フォーレの『レクイエム』他、ソリストを数多く務める。指揮者としての活動にも力を入れており、カンタータやオラトリオは自らオーケストラを指揮しながらソロを歌うなど活動の幅を広げている。また、理論に基づいた発声指導には定評があり、多方面から指導依頼も多い。

J. S. G. 国際歌曲コンクール第1位。日本音楽コンクール入選。青山音楽賞、松方ホール音楽賞大賞他受賞。蔵田裕行氏に師事。関西二期会、日本シューベルト協会会員。MBS 音楽コンクール、全日本学生音楽コンクール審査員。京都混声合唱団、女声合唱団ヴォワ・ドウ・ママン、兵庫県立芸文センター合唱団、パナソニック合唱団、サントリー1万人の第九他指導者。大阪音楽大学、同志社女子大学講師。小玉晃の音楽学校主宰。日本ドイツリート協会関西支部長。

■石橋 栄実 (Emi Ishibashi) / ソプラノ



大阪音楽大学卒業、同大学専攻科修了。大阪舞台芸術奨励賞、音楽クリティック・クラブ奨励賞、坂井時忠音楽賞、咲くやこの花賞、他受賞。1998年「ヘンゼルとグレーテル」グレーテルでオペラデビュー。その好演によりドイツ・ケムニッツ市立歌劇場「ヘンゼルとグレーテル」にグレーテル役として招聘される。以来、新国立劇場をはじめとする多くの劇場主催公演に主要な役で出演し続けている。近年では、新国立劇場「沈黙」オハル、「ラ・ボエーム」ムゼッタ、「フィデリオ」マルツェリーネ、新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室「夕鶴」つう、大阪

国際フェスティバル「ランスへの旅」コルテーゼ夫人(アルベルト・ゼッダ氏指揮)、ザ・カレッジ・オペラハウス「ファルスタッフ」ナンネッタ、「偽の女庭師」セルベッタ、いずみホール「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・アンナ、「愛の妙薬」アディーナ等。また、交響曲・宗教曲のソリストを多く務める他、NHK 大阪放送局開局80周年記念番組「ラジオ歌謡とその時代」テレビ出演、「NHK 名曲リサイタル」「久石譲ジルベスターコンサート」出演等、幅広く活動している。2018年11月ザ・カレッジ・オペラハウス「電話」、2019年1月いずみホール「ボッペアの戴冠」に出演予定。大阪音楽大学教授。大阪音楽大学附属音楽院院長及び同音楽院「ジュニアコーラス PaPaPa」「進学コース」講師。

■谷地 畝 晶子 (Shoko Yachiune) / アルト



岩手大学教育学部芸術文化課程音楽コース卒業。東京芸術大学音楽研究科博士後期課程独唱科修了。第16回日仏声楽コンクール第1位。2012年度三菱地所賞受賞。第57回芸大メサイア、第28回台東区第九、第349回芸大合唱定期ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」のアルトソロ、第54回芸大定期オペラ「ファルスタッフ」クイックリー夫人を務める。また、J.S. バッハ「クリスマスオラトリオ」、「ロ短調ミサ」、「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト、ヴェルディ、ドヴォルジャーク、デュルフレ「レクイエム」、メンデルスゾーン「パウロ」「エリヤ」、マーラー「交響曲第3番」等においてアルトソリストで出演。これまでに、関西フィルハーモニー、芸大フィルハーモニーなどと共演している。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、故・朝倉蒼生、伊原直子、寺谷千枝子、森晶彦の各氏に師事。岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学短期大学部非常勤講師。

■松原 友 (Tomo Matsubara) / テノール



東京芸術大学卒業。同大学大学院修了。ロームミュージックファンデーション、野村財団奨学生としてミュンヘン音楽大学大学院院、ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。第51回全国学生音楽コンクール全国大会第1位。第14回松方音楽賞、第81回、第83回日本音楽コンクール第3位・岩谷賞、平成28年度文化庁芸術祭音楽部門新人賞受賞。NHKリサイタルノヴァ、ルールトリエンナーレ、小澤征爾音楽塾、サイトウキネンフェスティバル、PMF音楽祭に出演。小澤征爾、ウルフ・シルマー、準・メルクル、インゴ・メッツマッハー、ハルトムート・ヘンヒェン、山田和樹他、国際的な指揮者と共演を重ねる。日本及びヨーロッパの各地においてオーケストラと共演し、オペラ、リサイタルに出演。オラトリオにおいてはマタイ受難曲、ヨハネ受難曲のエヴァンゲリストをはじめ、数多くの公演に携わる。

武蔵野音楽大学、同志社女子大学、相愛大学、大阪音楽大学、大阪府立夕陽丘高校各非常勤講師。二期会会員。

■青山 貴 (Takashi Aoyama) / バス



東京都出身。東京芸術大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ第44期修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁、ロームの奨学金を得てボローニャ、ミラノで研鑽を積む。第19回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。2010年第4回マグダ・オリヴェーロ国際コンクールファイナリスト（イタリア・ミラノ）。オペラは、2009年新国立劇場オペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピア、2014年同『蝶々夫人』シャープレスなどで出演。びわ湖ホールでは2017年『ラインの黄金』ヴォータン、2018年『ワルキューレ』ヴォータンで出演。2019年には『ジークフリート』さすらい人役で出演予定。また日生劇場には2016年『セビリヤの理髪師』フィガロなどで出演した。コンサートでは「第九」、「ミサ・ソレムニス」、ヴェルディ「レクイエム」、モーツァルト「レクイエム」、フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、バッハ

「ロ短調ミサ」、「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」、ハイドン「四季」、「天地創造」、メンデルスゾーン「エリヤ」、ブラームス「ドイツレクイエム」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」、ウォルトン「ベルシャザール王の饗宴」、ドヴォルジャーク「スターバト・マーテル」、マーラー「千人の交響曲」等のソリストを務める。男性ユニット IL DEVU のメンバーとしても活動。二期会会員。

■びわこアーベントロート合唱団／合唱



常任指揮者 竹内 公一

1973 年、オペラ「トスカ」に出演する合唱団員を県内から募集し、70 人が舞台に立ったのをきっかけに、翌年大津労音 20 周年記念例会として実現した「第九」公演での合唱団へと発展。以降、毎年合唱団を結成し、年末恒例の例会として「第九」の公演を行ってきた。また、88 年からは毎年夏にも「夏の大合唱コンサート」を行い、通年で活動する合唱団となった。団員の職業や年齢はさまざまであり、滋賀県下全域や遠く県外からも集まって来ている。その幅広さ

と歌への情熱が、合唱団の暖かく豊かなハーモニーの元になっている。発足 25 周年を機に合唱団の愛称を「びわこアーベントロート合唱団」（アーベントロート＝ドイツ語で“夕映え”の意）と命名した。「びわ湖の夕映えのように美しいハーモニーを目指したい」との思いが込められている。2014 年に創立 40 周年を迎え、さらなる飛躍を目指している。

●合唱指導●

竹内 公一 太田 智子 馬場 昌子 【ピアニスト】 神永 強正

●出演者●

【ソプラノ】

井上 まどか	伊庭 治子	今井 朋代	大窪 明美	太田 智子※	小川 由美子
甲斐 溢枝	加納 眞由美	北村 千香子	郷田 あかね	櫻井 エツ子	島田 美知子
鈴木 真弓	高橋 泰子	竹村 啓子	谷川 美千子	中嶋 宏美	永平 佳子
長谷川 みどり	林 尚美	林 典子	原池 恵子	原田 啓子	平場 滯
藤田 幸枝	三木 洋子	山仲 幸	山本 敏代		

【アルト】

浅尾 美都子	今井 登盛子	上原 すみ子	及川 緑	垣見 智江	木田 正子
小嵯 美由貴	斎藤 知都子	澤 薫	田中 千子	田中 智恵	中島 早苗
西村 民子	馬場 昌子※	平井 美衣瑠	藤澤 宏子	船田 はるみ	横山 けい子

【テノール】

岩田 朋裕	川村 輝夫	小森 彰	広田 知紀
-------	-------	------	-------

【バス】

東 顕	糸井 正幸	岡本 安弘	川口 逸司	北川 克一	田附 敦浩
谷川 尚己	谷川 博己	中島 紘平			

■京都混声合唱団／合唱



常任指揮者 小玉 晃

1925 年発足。26 年、京都在住の「同声会」（東京音楽学校＝現・東京藝術大学＝同窓会）メンバーに音楽愛好家が加わり、本格的な活動を開始。戦後はアマチュア合唱団に改組、創立以来、一貫して宗教大曲を中心に演奏活動を続ける。2015 年に 24 年間にわたって常任指揮者を務められた蔵田裕行氏に代わり小玉晃氏を新常任指揮者として迎え、新生京都混声として新たな歴史を刻み始めている。

●合唱指導●

小玉 晃 【ピアニスト】 辻本 圭 吉井 明美

●出演者●

【ソプラノ】

一向 智香子	今吉 洋子	岩城 直子	沢頭 靖子	大濱 由美子	金光 晶穂
上阪 彰子	鈴木 恵子	谷 ゆみ	南村 好美	林 くに子	菱田 朋子
前山 夕起子	牧野 裕子	松岡 祐子	間藤 厚子		

【アルト】

浅居 香緒里	池本 美和子	岩室 博子	岩本 麻紀	宇佐美 まり	梅影 圭子
岡田 紀久	奥野 仁子	加藤 良子	北村 容子	日下 幸子	倉橋 鈴子
佐野 真由子	篠原 由利子	竹田 和子	谷口 妙子	千代 英紗子	寺田 綾乃
徳島 美都子	長野 悦子	中村 あや子	名取 真由美	難波 淳美	西山 孝子
萩原 日出子	橋本 静	平嶋 和加子	松崎 洋子	山本 恭子	山本 智子
山本 直子					

【テノール】

岩室 史英	北浦 啓	桑山 晃一	座安 夏輝	篠原 修一	谷 信幸
-------	------	-------	-------	-------	------

【バス】

安達 忠良	桂 京造	近藤 靖	酒見 英太	田中 宏一	早川 亮太
平松 利信	別所 高志	宮崎 源正	山本 敏雄		

■大津児童合唱団／合唱



大津児童合唱団は昭和 28 年に NHK 大津放送児童合唱団として発足し、NHK 機構改革により「大津児童合唱団」と改名して現在に至っている。主な活動としては、毎年 3 月に開催している定期演奏会をはじめ、滋賀県少年少女合唱連盟の「合唱祭」、大津市合唱連盟の「合唱のつどい」や他団体との交歓演奏会などへの出演や、びわ湖ホール主催のオペラ出演など多くの演奏機会を通して、子どもたちの合唱による社会教育を第一としている。レパートリーとしては、少年少女のための合唱曲、童謡、民謡、クラシックの名曲、ポピュラー曲、ミュージカルの演奏のほか、

滋賀県や琵琶湖を題材にしたオリジナル曲などがあり、親しみをもって臨んでいる。美しいものを美しいと感じ、人との輪を保つ中で素晴らしいハーモニーを求めて日頃の練習に励んでいる。

■オーケストラ・シューベルティアード／管弦楽

声楽家、指揮者として活動する竹内公一の呼びかけで、滋賀県をはじめ関西で活躍するプロの演奏家によって組織されるオーケストラ。2008年のびわこアーベントロート合唱団“シューベルトプログラム”を機に、名称をオーケストラ・シューベルティアードとした。経験豊かで優れたメンバーが集まることにより、様々な作曲家の作品に対応し、合唱団の演奏を力強く支えている。

【第1 オーケストラ】

ヴァイオリン	萩原 合欽	前川 友紀	馬場 和子	相原 瞳
	小川 菜奈	野村 朋子	桑名 しのぶ	
ヴィオラ	中田 美穂	上川 忠明		
ヴィオラ・ダ・ガンバ		頼田 麗		
チェロ	成川 昭代	柳瀬 史佳		
コントラバス	長谷川 順子			
オルガン	中山 幾美子			
フルート	川島 ゆかり	下野 依子		
オーボエ・イングリッシュホルン		鈴木 健史	大森 美希	
ファゴット	田中 良美			

【第2 オーケストラ】

ヴァイオリン	木下 真紀	川端 直子	遠藤 留美子	佐藤 智子
	田畑 佳子	川瀬 陽子	安藤 佳子	
ヴィオラ	佐藤 則子	塩澤 まり子		
チェロ	福富 祥子	野田 祐子		
コントラバス	関 一平			
フルート	竹林 秀憲	竹林 春奈		
オーボエ・オーボエダモーレ		廣瀬 裕美	中山 房子	

■マタイ受難曲について

マタイ受難曲は数ある宗教音楽の中でも最高傑作と言われています。編成的規模の大きさと演奏時間の長さもそれまでの作品にないものですが、ソリストと合唱団におけるドラマの劇的表現、アリアにおける深い抒情性など、イエスの受難というキリスト教における核心的な事柄を壮大にして美しい音楽物語として描き出しています。それゆえ、バッハのマタイ受難曲は教会の礼拝の一部という受難曲の位置を超え、芸術作品として高みにあります。

ヨハン・セバスチャン・バッハ（1685-1750）はドイツ、アイゼナハ生まれ。長きにわたり多くの音楽家を輩出した音楽一家の出身です。日本の音楽教育では西洋音楽の礎を築いたバロック音楽の大家という位置づけで「音楽の父」とも呼ばれています。J.S.バッハは宮廷礼拝堂オルガニストとしてのワイマール時代に始まり、宮廷楽長としてのケーテン時代、そしてライプツィヒでは聖トーマス教会の音楽監督として活躍しました。オルガニストとしての活動の他、作曲家として全時代に作品を残し、通奏低音に乗った和音の連続性、理論的で芸術性の高いフーガ、また対位法といった作曲法で芸術的完成度を高め、オペラ以外の幅広いジャンルで名曲を残しました。古典派の時代は一時代前の音楽として忘れ去られていましたが、マタイ受難曲の初演から約100年後の1829年に作曲家メンデルスゾーンが復活上演したことにより再評価が高まり、現在ではJ.S.バッハはバロック音楽を完成させ、いまなお愛される多くの作品を残しただけでなく、現代の音楽にも大きな影響を与える作曲家として、その名を知らぬ人はいません。

受難曲は、キリスト教におけるもっとも重要な記念日、復活祭の前の金曜日のイエス十字架上の死を音楽物語として上演するために作曲されました。新約聖書の「マタイ伝」第26章、27章のイエス受難の物語を用い、作曲されたのがこの「マタイ受難曲」です。第1曲では重い足取りで十字架を背負い歩く様子を来て、嘆きましょと二手に分かれた合唱が呼び掛け合う曲から始まります。イエスの十字架上の死の予言、祭司長たちの会議、ベタニアの女のエピソード、ユダの裏切りと続きます。絵画においても印象的な最後の晩餐、オリーブ山にて、ゲッセマネの祈り、捕縛までが第1部です。

第2部では総督ピラトの尋問と判決、鞭打ち、十字架への道と磔、イエスの死、降架と埋葬、追悼と進みます。2群の合唱とオーケストラ、児童合唱、イエス、ピラト、ユダ、ペテロなどの登場人物とともに聖書の言葉を受け止め、イエスの受難を追体験していただければと思います。それはキリスト教のテーマでもある「大いなる愛」の証であり、現代にも通じる大切なものと感じる機会になることと思います。

本日の演奏会では指揮者を福音史家が務める振り歌いというスタイルで演奏されます。一般的に分かれている役割ですが、福音史家が指揮をするということは、聖書の言葉を歌う福音史家が舞台の中心に立ち、物語を進め、イエスを紹介し、民衆の言葉を引き出すだけでなく、その裏側にある人の心や想いを歌ったコラールやアリアを指揮することにより、福音史家＝指揮者の一つの強く深い愛がゆるぎなく表現されるということになるかと思います。畑儀文さんはこれまでに福音史家を日本だけでなくドイツを中心としたヨーロッパでも数多く歌っています。福音史家における第一人者ということだけでなく、シェーベルトの歌曲全曲演奏や、ピアノ弾き歌いなど演奏、自身の出身地での国際音楽祭のプロデュースなど多岐にわたる活動の豊かさが年々歌に染み出し、その言葉や声に輝きを増しているかのようです。

京都混声合唱団とびわこアーベントロート合唱団は隣の県にあって長く同じように合唱音楽、とりわけ、宗教曲を歌ってきた合唱団です。二群の合唱をそれぞれが受け持つのではなく、各合唱団で二群に分かれています。合同の練習を経た二つの合唱団が1つの合唱という大きな役割を演奏いたします。

びわこアーベントロート合唱団 常任指揮者 竹内公一